

エコチル調査の進捗について (概要)

令和2年2月
環境保健部環境リスク評価室



子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

背景・目的

人々を取り巻く社会環境、生活環境は大きく変わってきており、それにともない、環境の汚染や変化が人の健康などに悪影響を及ぼす可能性（＝環境リスク）が増大しているのではないかと懸念があり、本事業を通して、特に国内外で大きな関心を集めている、子どもの成長・発達にもたらす影響について明らかにする。

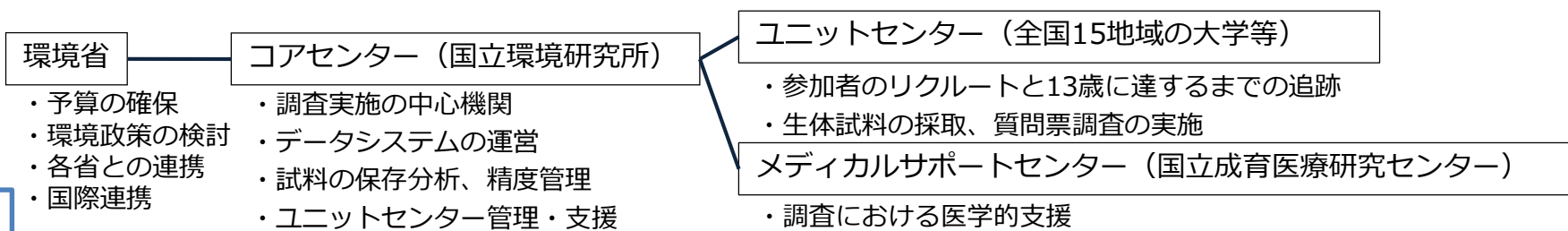
事業概要

子どもの健康に影響を与える環境要因を明らかにするため、10万組の親子を対象とした大規模かつ長期のコホート調査として、参加者（親子）の血液や尿、母乳などの生体試料を採取保存・分析するとともに、子どもが13歳に達するまで質問票による追跡調査を行う。

令和元年（平成31）年度は、子どもの成長過程における化学物質曝露を評価するための「学童期検査」を開始するとともに、正しく化学物質リスクをさげ、リスクと上手に向き合う社会を目指すため、「地域の子育て世代との対話事業」を実施。

事業目的・概要等

事業スキーム



期待される効果

子どもの発育に影響を与える化学物質や生活環境等の環境要因が明らかになる。それらを活用した、子ども特有のばく露や子どもの脆弱性を考慮した適正な環境リスク評価、化学物質の規制強化などリスク管理が推進され、次世代育成に係る健やかな環境が実現される。

イメージ



- ・化学物質等の測定、分析
- ・生体試料の長期保存 等



- ・遺伝要因、生活習慣要因、社会要因等と併せて統計分析

妊娠初期・中期

- ・インフォームドコンセント
- ・妊婦血液、尿の採取
- ・質問票調査



出産時

- ・母の血液・毛髪、父の血液の採取
- ・出生児の健康状態を確認
- ・ろ紙血（出生児）の採
- ・臍帯血の採取



1ヶ月時

- ・赤ちゃんの毛髪の採取
- ・母乳の採取



13歳の誕生日まで

- ・質問票調査（半年ごと）
- ・面接調査（数年ごと）
- ・環境試料の採取





子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の進捗状況

- 現参加者率：約95%（令和元年9月時点）
- 生体試料数：約450万検体（血液、尿等）
- 解析状況：妊娠期の母親約10万人分の金属濃度（5元素）等の測定が完了
（有機リン系農薬代謝物等の測定を実施中）
3歳児までの質問票調査等のデータとの関係を解析中
- これまでの成果（例）
全国データを用いた論文81編（うち中心仮説に係る論文7編、令和元年11月末時点）が学術雑誌等に掲載
 1. 重金属と前置胎盤
血中カドミウム濃度の低いグループと比べて、高いグループでは前置胎盤の人が2.1倍多く認められた。
 2. 妊娠期間中の喫煙と妊娠高血圧症候群
喫煙をしている妊婦では、喫煙をしていない妊婦と比較し、妊娠高血圧症候群のリスクが2.9倍高かった。
 3. 魚介類・n-3系多価不飽和脂肪酸摂取と産後抑うつ
妊娠期の魚介類およびn-3系多価不飽和脂肪酸の摂取は産後6ヶ月での抑うつリスク低下と関連していた。
- 社会への還元
 - ・ 第9回エコチル調査シンポジウム（2020年2月15日開催、東京）
 - ・ 令和元年度エコチル調査国際シンポジウム（2019年11月3日、幕張）
 - ・ G7富山環境大臣会合（平成28年5月）など※長期的かつ大規模な疫学調査が高く評価された。



第9回

子どもの健康と環境に関する全国調査

エコチル調査 シンポジウム



■司会
田村 あゆち氏 (フリーアナウンサー)

特別講演

「エコチル調査の夜明け」

佐藤 洋氏
(内閣府食品安全委員会 委員長)

基調講演

「エコチル調査の果実：調査の結果をどう社会に還元するか」

中山 祥嗣氏
(国立環境研究所エコチル調査コアセンター 次長)

パネルディスカッション

「環境中の化学物質と私たち」

■コーディネーター：
山縣 然太郎氏 (エコチル調査甲信ユニットセンター長)

■パネリスト(五十音順)：
大矢 幸弘氏 (エコチル調査メディカルサポートセンター長)[予定]
佐藤 洋氏 (内閣府食品安全委員会 委員長)
中山 祥嗣氏 (国立環境研究所エコチル調査コアセンター 次長)
和田 明日香氏 (食育インストラクター)

日時 2020年2月15日(土)
13:30~16:00(13:00開場)

会場 星陵会館 ホール

アクセス

- 有楽町線・半蔵門線・南北線 永田町駅6番出口より 徒歩3分
- 千代田線 国会議事堂前駅 5番出口より 徒歩5分
- 南北線 蒲池山王駅5番出口より 徒歩5分
- 銀座線・丸の内線 赤坂見附駅11番出口より 徒歩7分



入場 無料 定員 300名 託児 あり

参加をご希望の方は裏面をご覧ください。
※要事前登録

最終お申込締切 2020年2月10日(月) 17:00まで

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

（うち、地域の子育て世代との対話事業）

イメージ

小児を取り巻く環境と健康影響
について未解明な点が多い現状

子育て世代の不安の解消

- ① 子育て世代の悩み・不安に沿った形で基本情報をわかりやすくまとめ提供
- ② 加えて、化学物質のリスクと上手に向き合うため、自分の関心に引きつけ、受け止める機会を増やす



子育て世代と地域の関係者と双方向性の対話（本事業）

①パンフレットやQ&A等対話の基本情報

基本情報を活用し地域で実践例を創出



- ✓ 対話の内容
 - ・化学物質のリスクとの向き合い方や暮らし方について実践上の課題や方法等
- ✓ 対話の場・機会の例
 - ・妊娠期に母親学級・父親学級で
 - ・ママ友とサークル等で子育ての悩みとともに など

②効果的な対話の実践に向けた事例集・ガイドライン

- ✓ 実践例を生かして、全国へ対話の拡大



安全・安心な子育て環境の実現

- ✓ 化学物質のリスクと上手に向き合う
- ✓ みんなで支える子育て世代（地域循環共生圏）

事業目的・概要等

背景・目的

- ✓ 化学物質の利用は生活を豊かにするため、質量ともに増えているが、子どもの健康影響については未解明な点が多い。エコチル調査では、この点について科学的に研究を推進
- ✓ これから、エコチル調査の研究成果として学術雑誌での掲載が増えていく見通し（将来的には、化学物質管理等での活用も期待）
- ✓ 一方で、子育て世代は身の回りの物に含まれる化学物質に漠然とした不安を抱えている。リスクに関してネット・TV・雑誌で報道されるが、判断に悩む例は少なくない。正しくわかりやすい情報提供が必要
- ✓ さらに、自分の関心に引き付け受け止め、暮らしの中で上手に向き合うための施策が必要
- ✓ 子育て世代と関係者が化学物質のリスクについて向き合うことが可能な機会を広げるため、本事業を行う

事業概要

- ① 基本情報として、化学物質やその健康影響の一般的な内容を伝えるパンフレットや、エコチル調査の研究成果をわかりやすく伝えるQ&A等の素材を作成し、提供
- ② 子育て世代と、地域での双方向性の対話を通じ、化学物質のリスクとの上手な向き合い方の実践活動を促進。実践例は事例集・ガイドライン化し、全国展開

事業スキーム 環境省 → 事業者

期待される効果

- ✓ 子育て世代が、化学物質のリスクと上手に向き合うことが可能（正しくリスクを低減する行動等）
- ✓ 「子育て世代」同士や医療、行政、科学学習等の関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う地域環境（地域循環共生圏）